



ひと・自然・産業が輝く 協働と共創のまち 赤平市



赤平市基礎データ

総人口	8,613人 (R6年6月末現在)	製造品出荷額	1,877百万円 (R3経済センサス)
高齢人口 (高齢化率)	4,063人 47.8% (R6年6月末現在)	卸・小売年間販売額	11,405百万円 (R3経済センサス)
世帯数	5,320世帯 (R6年6月末現在)	一般会計規模	10,244,318千円 (R6当初予算)
人口密度	74.7人/km ²	市の木	かえで
面積	129.88km ²	市の花	菊
農業産出額	580百万円 (R4市町村別農業産出額)	市の鳥	ヤマガラ

赤平市の紹介

赤平市は、北海道のほぼ中央にあり、東は芦別市、西は滝川市・砂川市、南は歌志内市、北は深川市に隣接し、札幌市から約100km、旭川市へは約50kmの距離にあります。

本市は、松浦武四郎が空知川を調査し、沿岸で石炭を発見したことに始まるといわれ、明治24年に数戸が百戸地区で開墾を始めたことが開拓の元祖となりました。

大正2年に鉄道が開通し、大正7年に茂尻炭鉱が開抗、炭田の開発が急速に進むとともに人口の増加も著しく、大正11年に歌志内村から分村し赤平村となりました。

昭和に入ってから豊里炭鉱、赤間炭鉱、住友赤平炭鉱が開抗され、昭和18年町制施行、昭和29年7月1日に市制を施行しました。昭和35年には大小20あまりの炭鉱を有し、人口5万9千人を数えました。

しかし、昭和30年代中頃から進展したエネルギー消費構造の変化は、石炭産業に深刻な影響を与え、昭和42年の豊里炭鉱の閉山に続いて茂尻炭鉱、赤間炭鉱と大手の閉山が相次ぎ、さらに、坑内掘りとして唯一残されていた住友赤平炭鉱も、平成6年2月に閉山を余儀なくされました。

炭鉱閉山後は市内の産業と雇用を守ろうと、鉱業から工業のまちへの転換が図られ、工業団地に道内外の企業を誘致し、現在も多くの工場が操業しています。

赤黒のまちづくり事業

赤平市は、道内18番目の市として市制を施行してから、本年で70周年を迎えました。

それに合わせ、株式会社コンサドーレ並びに一般社団法人コンサドーレ北海道スポーツクラブと地域連携協定を締結し、スポーツを通じたまちづくりや地域活性化を目的とした「赤黒のまちづくり事業」に官民共同で取り組んでいます。

内容としましては、赤平市の市名の「赤」と石炭の「黒」がコンサドーレのイメージカラーである「赤黒」と一緒であることから、その色をまちづくりにつなげるというものです。

例えば、市内の店舗の扉やシャッターなどを赤黒に塗装したり、イベントの際に赤と黒の服を着用したりして、まちの風景のなかに「赤黒」を広げ、「赤黒が映えるまち」を目指しています。

また、サッカーを通じた取り組みとして、令和6年6月に「赤黒トークショーinあかびら」と「あかびらスマイルサッカー！」を開催しました。

元日本代表選手「小野伸二さん」、元コンサドーレ札幌の選手「河合竜二さん」、北海道コンサドーレ札幌社外取締役「鈴木貴之さん」による「赤黒トークショーinあかびら」では、普段聞けない貴重な話を聞くことができ、最後は満員の会場総立ちのスタンディン

グオベーションが起きました。

「あかびらスマイルサッカー！」では、赤平小学校の児童を対象に開催し、子どもたちは、「小野伸二さん」、「河合竜二さん」、元コンサドーレの選手「横野純貴さん」と一緒にサッカーを楽しみながら、プロの技術を間近で見る貴重な体験をすることができました。

さらに、8月には「市民応援バスツアー」を開催し、市民45名が「北海道コンサドーレ札幌」のホームゲームを観戦しました。当日は、大型ビジョンに赤平市のPR動画が上映されました。

今後も、「三世代で楽しめるファミリーサッカー」や飲食店の「赤黒のメニュー」など、さまざまな展開が予定されています。

赤平市のイベント

●あかびら火まつり

7月中旬に2日間の日程で開催される「あかびら火まつり」は、昭和47年に始まった赤平市最大の夏のイベントです。

まつりのメインとなるのは、1日目に行われる「火文字焼き」。赤いフンドシ（赤フン）を履いた大勢のランナーが赤平神社からいただいた神火をタイマツに灯し、市内3コースから会場目指して駆け巡ります。ランナーが入場すると、会場は熱気に包まれます。

その後、「炭鉱（ヤマ）の灯よ、永遠なれ」の願いを込め、赤平市のシンボルであるズリ山に巨大な「火」の文字が点火され、会



あかびら火まつり「赤フンランナー」

場の盛り上がりは最高潮となります。

2日間にわたる火まつりのフィナーレを飾るのは、「市民花火大会」。令和6年度は、5,000発の花火が夜空を埋め尽くしました。

その他にも、市民踊りなどの各種イベント、屋台やキッチンカーなどで、夏のお祭りを思う存分お楽しみいただけます。

●赤平産業フェスティバル

10月に開催される「赤平産業フェスティバル」は、ものづくりのまち赤平を市内外にPRするために、市内の農業・商業・工業が集結するイベントです。

ものづくり企業が集まるまち赤平で制作された製品の販売や紹介、地元で収穫された新米や新鮮野菜の直売のほか、飲食ブースではご当地料理やスイーツが並び、ステージでは様々な催しが行われます。

食べて、遊んで、赤平市の農業・商業・工業を堪能することができる、子どもから大人まで楽しめるイベントです。



赤平産業フェスティバル「もちまき」

赤平市の見どころ

●赤平市炭鉱遺産ガイド施設

赤平市炭鉱遺産ガイド施設は、日本遺産に登録された、赤平市の貴重な炭鉱遺産を紹介する施設であり、およそ200点の資料を展示しています。東洋一と謳われた「旧住友赤平炭鉱立坑櫓」のヤード内部や、実際に炭鉱で使用されていた大型掘削機械等を展示している自走柵整備工場を、実際に炭鉱で働いていた方を中心としたガイドの解説を聞きながら見学することができます。



赤平市炭鉱遺産ガイド施設

●エルム高原リゾート

「エルム高原リゾート」は、日帰り温泉、貸別荘式コテージ、イベントやキャンプを楽しむ自然公園・オートキャンプ場で構成されている、国道からアクセスのしやすい、自然豊かな高原リゾートです。

市民やキャンプを楽しむ観光客が集まり、疲れを癒すことができる日帰り温泉施設「ゆったり」、生活家電や寝具が備え付けられ別荘感覚で宿泊を楽しむことのできるコテージ「虹の山荘」、キャンプを楽しむ家族連れ・仲間連れのテントが並び、多くのリピーターに親しまれている自然公園型キャンプ場の「家族旅行村」と「オートキャンプ場」が隣接しており、四季を通じて気軽にアウトドアを満喫することができます。

また、家族旅行村内には世界的に著名な彫刻家である流政之氏の作品が広範囲に屋外展示されており、芸術鑑賞をしながら適度な距離の自然散歩を楽しむことができます。



オートキャンプ場

●情報発信基地AKABIRAベース

大きなクマゲラが目印のAKABIRAベースは、地元でとれた新鮮な野菜やお菓子、お土産、周辺の観光情報が揃う観光案内所で、赤平のグルメを味わうこともできます。

また、令和元年に赤平市でロケが行われた人気番組「水曜どうでしょう」のグッズを各種取り揃えています。



AKABIRAベース

●ズリ山展望広場

石炭の選炭作業で出た廃石（ズリ）を積み上げたズリ山は、交流センターみらい（赤平駅）の裏側にあります。

頂上までまっすぐ伸びる階段は、ズリ山階段としては日本一の777段あり、往年の石炭生産量を物語ります。途中にはベンチも設置されており、休憩をとりながらのぼることができます。

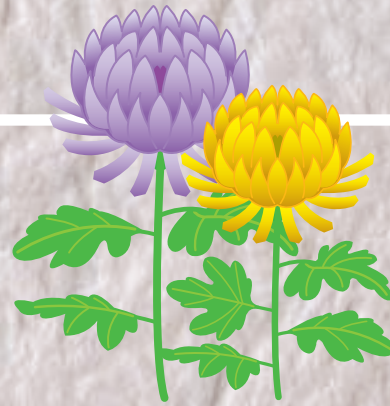
頂上の展望広場からは、赤平市内、芦別岳、十勝岳を一望することができ、観光客やウォーキングをする市民が訪れます。また、「あかびら火まつり」では、ズリ山の表面に火文字が描かれます。



ズリ山展望広場からの眺め

赤平市には、緑豊かな自然環境を活かした「エルム高原施設」や日本遺産に登録された旧住友赤平炭鉱立坑櫓を含む「炭鉱遺産」など、個性あふれる地域資源や「あかびら火まつり」をはじめとする地域イベントがあります。今後も、これらを通して、赤平市の魅力を市内外へ発信していきます。

赤平市の四季



【春】赤平公園



【夏】あかびら火まつり



【秋】旧住友赤平炭鉱立坑櫓



【冬】交流センターみらいとズリ山